

目標 3

目指すまちの姿

- 妊娠期から成人するまで、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、子育て世帯を地域で支え合うまち
- 妊娠期から出産、子育て期にわたる切れ目ない支援により、妊婦とその家庭が安心して出産、子育てができるまち
- 地域が協働して、すべての子どもへの応援を行うため、人と人となが繋がる仕組み・心の居場所づくりを推進するまち

実現したい交流 大切にしたい交流

- こども家庭センター「育ちあいちの」と医療、福祉、教育、地域との連携をしながら子どもやその家庭を支える。
- 妊産婦同士及びその父親同士、育児経験者との交流
- 利用者同士の交流、異世代交流、地域との交流

成果指標と目標

- サポートプランの作成（サポートプラン作成件数/年度内の要対協登録総数）（現状 R4年度 5%）
目標値（R10年度末） 20%
- マタニティ講座参加者の参加満足度（5段階評価で4以上の人の割合）（現状 R4年度 なし）
目標値（R10年度末） 80%
- こども館0123広場利用満足度（5段階評価で4以上の人の割合）（現状 R4年度 なし）
目標値（R10年度末） 80%

Well-Being指標と目標 （市民意識調査）

- 茅野市では、子どもたちが活き活きと暮らせる。
- 茅野市は、子育て支援・補助が手厚い。

現状と課題 ⇒ 重点施策、施策の方針等

茅野市の強み

- こども家庭センター「育ちあいちの」専門職員による相談支援等
- ファミリー・サポート
- 特別支援保育・教育
- 妊娠期から保育園入園まで担当保健師の継続的な関わり
- こども館0123広場やこども館CHUKOらんどチノチノ、各地区に開設されている地区こども館といった子どもの居場所

子ども・家庭への支援の充実

- こども家庭センター「育ちあいちの」において、専門性と継続支援が必要な困難ケースが増加しているため、専門職を含む職員体制の強化や地域資源を開拓し、家庭が困難な状況になる前に予防していく必要がある。
⇒**子育てに課題を持つ家庭に対し、アセスメントを行い、サポートプランを作成する中で、親子の意見をよく聞きながら支援をしていく。**
サポートプランの中で提供できる地域資源を開拓し、子育てに課題を持つ家庭を支えていく。

保健・福祉事業の充実

- 少子化、核家族化により初めての妊娠、出産、子育てに対して孤立感、不安を持つ妊婦が多い。父親の育児休暇取得が推進されているが、子育てについて父親が学ぶ機会が少ない現状にある。出産を迎える前に夫婦ともに不安を解消し、安心して出産を迎えられるように講座、相談の機会を通して支援する必要がある。
⇒**出産・子育てが未経験の第1子妊婦へマタニティ講座への参加促進や、その夫のパパママ講座への参加促進など、妊婦の出産や子育ての不安等への支援の充実を図り、不安の解消、安心した出産につなげる。**

居場所づくりの推進

- 社会情勢や人の価値観が変化する中で、子どもの居場所の確保やその多様性が求められているとともに、設置から約20年が経過する各施設について、時代に合った形やあり方の検討が必要。子ども食堂などの子どもの居場所づくりに関する市民活動が活性化している。
⇒**各施設に特徴を持たせたり、適正な配置等を検討していく。**
今の時代や価値観に合った形の講座やイベント等の構築を図る。
子どもの居場所として、市民や地域の協力のもと活性化を図る。

D X・アナログの再構築

- ・ デジタル技術を活用したアンケート等と、その結果に応じた電話、訪問等を行い、きめ細やかな支援につなげる。

多様性の尊重

- ・ 個人的な価値観ではなく、子ども一人ひとりの人権を尊重し、多様な家庭を認めながら支援をしていく。

行財政改革

- ・ 少年育成センターの活動の見直し
- ・ 地区こども館の運営方法の見直し

主な事業

- ・ こども家庭センター事業
- ・ ファミリー・サポート・センター事業
- ・ 児童扶養手当事業
- ・ 児童手当給付事業
- ・ 発達支援通園事業
- ・ 特別支援教育事業
- ・ マタニティ講座事業
- ・ パパママ講座事業
- ・ 子どもの居場所づくり推進事業費
- ・ 学童クラブ運営事業費
- ・ こども館0123広場運営費
- ・ 地区こども館運営費
- ・ こども館CHUKOらんどチノチノ運営費

関連計画等

- ・ 茅野市こども・家庭応援計画
- ・ 茅野市健康づくり計画

- 3つのまちの姿 2 心豊かに学び育ち活躍できるまち
- 関係分野（基本計画） 2 教育



目標 3

目指すまちの姿

- 親育ちを支える環境をつくるまち
- 幼児期からの連続した発達に配慮するとともに、バランスの取れた教育を実践することで、次世代を担う子どもたちの「生きる力」を育むまち

実現したい交流 大切にしたい交流

- 親が子どもとともに成長できるよう、妊娠時からすべての年代の子どもの成長に合わせた講演会等、様々な機会の提供と活用を行う。
- 心豊かな子どもたちを育むため、学校と家庭、また地域との交流により一体となった取り組みを推進する。

成果指標と目標

- 一日保育士体験参加率（父親）の増（現状 R5年度 20.8%）
目標値（R10年度末） 30%
- 一日保育士体験参加率（母親）の増（現状 R5年度 46.8%）
目標値（R10年度末） 60%
- 児童生徒の学校に対する満足度（現状 R4年度 87%）
目標値（R10年度末） 95%

Well-Being指標と目標 （市民意識調査）

- 茅野市は、教育環境（小中高校）が整っている。
- 茅野市では、子どもたちが活き活きと暮らせる。

現状と課題 ⇒ 重点施策、施策の方針等

茅野市の強み

- 一日保育士体験の継続と定着
- 幼保小連携教育
- 読書教育
- 探究の学び
- 縄文科学習
- 食育

親育ちの推進【幼児教育】

- 親の子育てに対する価値観の多様化や、地域でのつながりの希薄化などを背景に、子育てに対する意識が大きく変化している。親が親となるための環境をつくる。
⇒保護者が一日保育士体験に参加し、子どもの成長を実感し、子育ての楽しさや育児を見直す機会を推進する。

次世代を担うひとづくりの推進【学校教育】

- 学校の再編、施設の老朽化への対応
⇒**学びのあり方を軸に、子ども、保護者、地域との対話をしっかり行いながら、学校再編を進める。** **行財政改革**
- 使える英語の習得
⇒**使える英語の習得のため、「聞く力」、「話す力」に特化した授業を展開する。**
- 学校間格差のないICT教育の展開
⇒**児童生徒が自らのために能動的にICT技術を活用できる状態を目指す。** **D X・アナログの再構築**
- 多様な学びの推進
⇒**産学官、及び民間施設との連携を強化する。** **多様性の尊重**

行財政改革

- ・ 保育所の民営化・適正配置の検討

主な事業

- ・ 一日保育士体験事業
- ・ 小中一貫教育推進事業
- ・ 小中学校英語教育支援事業
- ・ 縄文のビーナスプラン推進事業
- ・ 心の教育事業

関連計画等

- ・ 茅野市こども・家庭応援計画

- 3つのまちの姿 …………… 2 心豊かに学び育ち活躍できるまち
- 関係分野（基本計画） …… 3 読書

S D G s



目標 3

目指すまちの姿

- 「たくましく やさしい 夢のある子ども」に育つことを願い、「ことばとところを育てる読書活動」を実践するまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- 図書館、学校、市民団体等の連携による取組の推進

成果指標と目標

- 読書に関する意識（読書への興味関心）の割合（令和4年10月実施読書アンケートの結果）
（現状 R4年度小学校6年 86%、中学校 81%）
目標値（R10年度末）小学校6年 87%、中学校 82%

Well-Being指標と目標
（市民意識調査）

- 茅野市では、子どもたちが生き活きと暮らせる。

現状と課題 ⇒ 重点施策、施策の方針等

茅野市の強み

- 胎児期からの子どもの読書活動を計画・推進し、幼保小連携教育、小中一貫教育を通しての読書活動

こころとことばを育てる読書活動の推進

- 職員が研修した絵本をどのように保育の中でいかしていくかなど、計画しながら進めていく。家庭によって読み聞かせの取組方が違う。「家庭読書」の意識づけが必要。子どもが自ら目的を持って読むことができるような取組が必要。
⇒ 保育園、学校などにおける研究・研修の充実と情報共有や、ブックリストの内容の検討、新たに絵本から読み物へ誘うのに適した本について研修・紹介を行うなどして、子どもの発達段階別に取組を進める。

- 児童生徒の探究的な学びに繋がる支援に取り組めるよう、各校との連携をより深めていく必要がある。家庭読書への関心に温度差がある。「家庭でも読んでみたい」と思えるアプローチを検討する必要がある。

⇒ 児童生徒に関わる全ての教職員の読書活動への理解を深め、将来に繋がる読書活動について研修や相談体制の充実を図るほか、読書ボランティアや公共図書館など、多様な主体と連携し、活動の場ごとに、全ての子どもの読書の機会を確保する手立てを検討するなど、取組を進める。

主な事業

- ・ こども読書活動応援センター事業

関連計画等

- ・ 茅野市こども・家庭応援計画
- ・ 茅野市こども読書活動推進計画

基本となる手段

行財政改革

D X・アナログの再構築

基本となる価値観

G X・ゼロカーボン

多様性の尊重

縄文文化からの学び

地域創生総合戦略

総合戦略



目標 3

目指すまちの姿	自ら進んで学び続ける環境づくりを進めるまち
実現したい交流 大切にしたい交流	- それぞれの分野での学びが世代や地域を越えて一つになる交流 - 情報を軸に、人と地域がつながる交流 - 専門家や産学公の連携により、茅野市の魅力をテーマに交流

成果指標と目標

- 講座等満足度（現状 R4年度 公民館98%）
目標値（R10年度末）公民館100%
- 入館者数（現状 R4年度 図書館88,069 人、八ヶ岳総合博物館11,695人、神長官守矢史料館12,141人）
目標値（R10年度末）図書館120,000人、八ヶ岳総合博物館、神長官守矢史料館ともに15,000人

Well-Being指標と目標 （市民意識調査）

- 茅野市には、学びたいことを学べる機会がある。
- 茅野市は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい。
- 茅野市は地域活動への市民参加が盛んである。

現状と課題 ⇒ 重点施策、施策の方針等

茅野市の強み	● 本館・地区公民館・分館が連携した公民館活動の仕組み ● 図書館本館、分室、市民館図書室によるネットワークの構築、小中学校図書館との連携 ● 諏訪地域唯一の自然科学系博物館 ● 諏訪信仰や長野県の中世・近世の歴史を語る上で欠かせない守矢文書を収蔵
--------	---

「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」学べる環境づくり【公民館】

- ①社会環境の変化、多様化によるひとのつながりの希薄化、②市民の学びの場への参加と成果の還元、③地域の公民館活動の担い手不足と連携支援のあり方
⇒①人と人のつながり、対話、交流を大切にした生涯学習、地域づくりの場としての公民館の運営と機能の充実を図る、②中央公民館活動の充実と団体や地域との連携を図り、継続した学習機会の提供と団体の自主的活動や地域貢献活動への支援を進める、③専門委員とともに組織体制や地域連携の情報提供、助言を行うなどの支援を進め、地区公民館・分館活動の充実を図る。

一人ひとりの多様な学ぶ意欲に応える機能の充実【図書館】

- ①市民の学習意欲の多様化・高度化への対応、②市民の知識・技術を還元する場の提供、③図書館ボランティアグループの育成と活動支援、④地域資料のデジタル化の推進
⇒①市民の学習意欲の多様化・高度化へ対応するため、図書館機能の充実を図る、②市民の知識・技術を還元する場の提供などを通じて、読書活動の楽しさをつなげる活動を進める、③図書館ボランティアグループの育成と市民や読書活動グループなどへの支援を行う、④地域資料のデジタル化の推進などにより、資料の整備と充実を図る。

郷土の自然・文化や歴史に触れ、科学に親しむ機会の充実【八ヶ岳総合博物館】

- ①施設の老朽化と収蔵庫の不足、②市民の学習ニーズの多様化、③自然に触れる機会の減少、④産学公民連携の希薄
⇒①博物館の運営と機能の維持を図る、②市民の学習ニーズの多様化へ対応するため、博物館事業の充実を図る、③自然に触れる機会の創出などを通じて、科学教育の振興を図る、④産学公民連携を推進する。

守矢文書の保全と継承【神長官守矢史料館】

- 史料の重要性に対する市民の認知度の不足
⇒情報発信等により、多くの人に周辺遺跡や、神長官守矢家の持つ古文書の貴重性を伝えていく。

地域づくり・ひとづくりの推進

- 新型コロナウイルス感染症により自然体験学習は中止を余儀なくされた。こうした活動に対する市の関わり方等も含めて、今後の取組の方向性を検討する必要がある。
⇒公民協働で進めてきた取組の成果を検証しながら、引き続き市民の社会活動への参加を支援する。

D X・アナログの再構築

- ・ デジタル技術を活用した学びと、ふれあいのある集いの場との融合
- ・ 電子書籍等の利用促進、地域資料のデジタル化
- ・ デジタルコンテンツによる展示の補足

多様性の尊重

- ・ 多様な価値観・人権を考える学びの推進

縄文文化からの学び

- ・ 縄文文化に象徴される「茅野」に関する学びと郷土への愛着醸成から地域づくりを展開

行財政改革

- ・ 市民団体との関係性の見直し
- ・ 茅野市民館のあり方等の検討

- ・ 八ヶ岳総合博物館のあり方等の検討

主な事業

- ・ 公民館関連事業□
- ・ 図書館関連事業□
- ・ 博物館関連事業□
- ・ 守矢史料館関連事業□
- ・ 生涯学習講座関連事業□

関連計画等

- ・ 茅野市こども・家庭応援計画
- ・ 茅野市生涯学習推進指針
- ・ 茅野市社会教育推進計画
- ・ 茅野市こども読書活動推進計画
- ・ 縄文の里史跡整備・活用基本計画

- 3つのまちの姿 2 心豊かに学び育ち活躍できるまち
- 関係分野（基本計画） 5 文化・芸術



目標 3

目指すまちの姿	誰もが日常的に文化芸術に接し、個々の自由な発想による独創性を重視した創造活動の充実を図り、多様な文化の創造を推進するまち
実現したい交流 大切にしたい交流	感性を育み人々の心を豊かにする文化芸術活動によって、人々の交流が盛んになり、地域に活力を与える。また、地域文化の交流拠点である文化複合施設の充実を図る。

成果指標と目標	※検討中
Well-Being指標と目標 （市民意識調査）	茅野市は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい。

現状と課題 ⇒ 重点施策、施策の方針等

茅野市の強み	- 地域の交流拠点となる文化施設の存在 - 地域で活躍する団体の存在
--------	---

地域文化の創造と文化芸術活動の推進

- ① コロナ過や活動する人の高齢化等による文化・芸術活動の停滞及び市民館管理運営経費の負担が増加している。
- ② 子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実など求められている。
 - ⇒ ① 市民の自主的な文化・芸術活動を支援する。市民館の管理運営について精査し、必要に応じ見直しを図る。
 - ② 子どもや高齢者、子育て世代、障害のある人などすべての市民が文化芸術に触れることのできる環境整備・アウトリーチの取組について関係方面と協力・連携して推進する。

多様性の尊重

- 茅野市民館の基本理念は「市民一人ひとりが主人公になれる場」であり、文化芸術面から多様性を尊重した支援を行う。

行財政改革

- 茅野市民館のあり方等の検討

主な事業

- 公民館運営事業
- 市民館管理運営事業
- 優良芸術鑑賞講座事業

関連計画等

- 茅野市文化芸術推進計画
- 縄文プロジェクト

基本となる手段

行財政改革

D X・アナログの再構築

基本となる価値観

G X・ゼロカーボン

多様性の尊重

縄文文化からの学び

地域創生総合戦略

総合戦略

- 3つのまちの姿 2 心豊かに学び育ち活躍できるまち
- 関係分野（基本計画） 6 スポーツ



目標 3

目指すまちの姿	すべての市民が「市民1スポーツ」によって豊かなスポーツライフで生涯を楽しく健康に生きるまち
実現したい交流 大切にしたい交流	スポーツを通じた市内外の交流促進により、地域の一体感や活力を生み出し、地域の活性化を図る。

成果指標と目標	中学2年生女子の運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査） （現状 R4年度 71.4%） 目標値（R10年度末）80%
Well-Being指標と目標 （市民意識調査）	茅野市では、子どもたちが生き活きと暮らせる。

現状と課題 ⇒ 重点施策、施策の方針等

茅野市の強み	運動公園内にスポーツ施設が集積しており、地域スポーツの拠点となっている。
--------	--

地域における子どものスポーツ機会の充実

- 小学5年生男女の全国体力テストの総合評価は全国平均及び長野県平均よりも低いため、小学生のスポーツ習慣の定着化を図る必要がある。
⇒ **幼児期からの運動の習慣化を促すため、全身と五感を使った遊びや自然の中での遊びの楽しさを感じることができるように、子どもを対象とした各種取組を実施する。**
- 全国体力テストのアンケート結果では、1週間の総運動時間が1時間未満の子どもの割合は小学5年生・中学2年生ともに全国平均よりも高いため、小・中学生のスポーツ習慣の定着化を図る必要がある。
⇒ **子どもがスポーツの楽しさや充実感を実感できるように、学校体育以外でも全ての子どもが運動やスポーツができる環境を保障し、各種スポーツへの参加をサポートしていく。**

- 中学校の運動部活動は生涯スポーツの契機であり地域スポーツの根幹であることから、各種地域団体と連携し、中学校の部活動の地域移行を中学生期だけにとどまらない地域全体の課題として取り組む。
⇒ **中学校の運動部活動は生涯スポーツの契機であり地域スポーツの根幹であることから、各種地域団体と連携し、中学校の部活動の地域移行を中学生期だけにとどまらない地域全体の課題として取り組む。**

D X・アナログの再構築

- ・ デジタル技術を活用した施設管理

多様性の尊重

- ・ スポーツ基本法の本則の冒頭にある「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人の権利である」という基本理念

行財政改革

- ・ スケートセンター、ゴルフ練習場の維持・運営方法の検討

主な事業

- ・ 幼児運動教室
- ・ 小学生対象の運動・スポーツ教室
- ・ 障害児対象の運動・スポーツ教室
- ・ 子どもが運動やスポーツに親しむことを目的としたイベント等の企画

関連計画等

- ・ 茅野市スポーツ推進計画
- ・ 茅野市こども・家庭応援計画

基本となる手段

行財政改革

D X・アナログの再構築

基本となる価値観

G X・ゼロカーボン

多様性の尊重

縄文文化からの学び

地域創生総合戦略

総合戦略

目標 3

目指すまちの姿	- 男女がお互いの特性と人権を尊重し、それぞれの個性や能力が発揮できるまち - 国籍や文化の違いを超えて、市民がお互いを尊重し、対等な関係を築き、共に生きることができる社会を実現する、多文化共生のまち
実現したい交流 大切にしたい交流	- 女性が参画することで、女性の視点が取り入れられることはもとより、女性がつながりを持つ高齢者や子どもの立場も配慮できるなど、様々な視点や発想が組み込まれ活性化につながる。 - 国籍や文化などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、尊重し、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく、多文化共生のまちづくりを推進する。

成果指標と目標	- 審議会・委員会等の女性委員登用率（現状 R4年度 27%） 目標値（R10年度末）35% - 市役所窓口における申請書等のルビ振りや「やさしい日本語」による作成状況の割合（現状 R4年度 34.3%） 目標値（R10年度末）40%
Well-Being指標と目標 （市民意識調査）	- 茅野市には、女性が活躍しやすい雰囲気がある。 - 茅野市は「やさしいまち」であると思いますか

現状と課題 ⇒ 重点施策、施策の方針等

茅野市の強み	- 市役所の雇用、区・自治会、家庭・教育の各分野を所管する部署が専門部会を設置し、男女共同参画推進のための取組を検討している。 - 長年の市民活動を通じて得てきた外国籍市民に関する知見と経験
男女共同参画の推進 - 新型コロナウイルス感染症は、外出自粛や休校等様々な影響を与え、家事・育児、子どもの家庭学習支援など、女性にかかる負担が顕著化した。 ⇒固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見、また無意識の思い込みを解消する。 - 災害時には、多様な視点を取り入れられる仕組みづくりを考えることが重要だが、区・自治会などの地域の組織において、方針決定に関わる役員の男女比率に大きな差がある。 ⇒男女が対等な社会の構成員として多様な能力を生かし、様々な視点から新たな発想や手段を取り入れ、お互いに協力していくために、男女共に意識を変えていく。 「男性は外で仕事、女性は家事育児介護」を前提とした生活習慣や制度が残る傾向が見られる。 ⇒働くことを希望する人が、性別にとらわれず自らの意思で希望する職業に就くことが可能となるように、働き方や慣行を見直す。 - インターネットの普及やSNSなどの新たなコミュニケーションツールの広がりにより、他人への誹謗中傷、プライバシーの侵害、差別的言動など暴力や性犯罪が多様化している。 ⇒男女が互いの性を尊重しそれぞれの身体の特徴を十分に理解し合うための学習の機会を提供する。また、様々な関係機関と連携し、暴力を根絶するための注意喚起や意識啓発を行うとともに、被害者が安心して相談できる体制を整える。	

多文化共生のまちづくりの推進

- 茅野市においても国際化が進み、多くの外国籍市民が生活しています。また、国際交流の機会も広がり、地域と世界の関わりは、日常的なこととなっています。こうした国際化の流れに的確に対応するためには、関連団体と連携、外国籍市民の自立に向けた新たな支援を含む多文化共生のまちづくりを推進するとともに、国際化に対応できる人材の育成が必要です。
⇒**茅野市で生活する外国籍市民が自立した生活を送れるように、多言語に加えて「やさしい日本語」による情報発信を行う。**
観光等で訪れた外国人も利用できるように、様々な情報を多言語により発信する。「保健・医療・福祉」、「子育て・教育」、「労働・雇用」等の6つの分野において、外国籍市民への支援を行う。
学校・社会における外国語教育を充実するとともに、コミュニケーション能力の育成を図る。国際交流活動の担い手となる団体やボランティアの人材の育成等に努める。
NPO法人や民間団体等の国際交流活動を支援する。
外国籍市民の抱える課題を解決するため、国・県及び関係団体等と連携し課題解決に努めるとともに、関係団体等への情報提供に努める。

主な事業 - 男女共同参画推進事業 - 家庭教育事業 - 外国籍市民相談 - 日本語教室 - 生活情報誌の発行 - 外国籍市民講座の開催	関連計画等 - 茅野市男女共同参画計画 - 茅野市多文化共生・国際交流推進計画
--	---